

令和5年度 三鷹中央学園 三鷹市立第三小学校 学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価 <small>※学園内で統一記述</small>				学校評価 <small>※各校ごとに記述</small>					
今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること				今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述					
今年度の重点目標				今年度の重点目標 (中評目標)					
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方針	取組項目	今年度の重点目標 (本年目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 第2回評価 結果 結果		
コミュニティ・スクールの運営	<p>①「中央学園スマイルアクション！」の幅広い広報活動と実践</p> <p>②学園研究を行う際の共通理解と共通実践</p> <p>③教員の働き方改革</p>	<p>○CS委員会の中では、極力、熟識や学校部会等を行い、多くの意見交換をすることができた。</p> <p>○「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の改訂を行い、名称を「中央学園スマイルアクション！」とし、生徒・保護者に周知された。</p> <p>○防災授業に地域人財とともに取り組んだと回答した教員は、85.9%と高く、三鷹中央学園9年間の防災教育の充実が図られた。また、人財活用による学習効果は、95.8%の教員が高まったと回答している。地域人財を積極的に活用した教育活動が進められた。</p>	<p>①地域学校協働本部への移行</p> <p>②「中央学園スマイルアクション！」の幅広い広報活動と実践</p> <p>③学園として統一した形の防災教育の実践</p>	<p>①コミュニティ・スクール委員会を核に、学校と地域の協働を進める。</p> <p>②「スクール・コミュニティ」を創造する。</p>	<p>①「三鷹中央学園はくぐくぐプラン(仮称)」を各所に周知し、実践する。また、更なる改善に向けて取り組む。</p> <p>②地域等の人財や学校施設を活用し、コミュニティ・スクール委員会と協働することを通じて、地域づくりの核となるスクール・コミュニティを目指す。</p>	<p>①「三鷹中央学園はくぐくぐプラン(仮称)」を提示し、紙上、デジタル等で各所に周知する。</p> <p>②防災課やみたくSCサポートネット等の協力を仰ぎ、三鷹中央学園9年間の防災授業を行う。</p>	<p>3</p> <p>-</p> <p>4</p> <p>1</p>	<p>学園の83.1% (第1回70.8%)の教員が生徒に向けて「はくぐくぐプラン(仮称)」について話をたと回答している。知ってはいるが回答した保護者は、15.6%であった。まずは、「中央学園スマイルアクション！」を児童・生徒、保護者に認識していただくために努力すること。そして、具体的なアクションをそれぞれが考えたいことが必要である。</p>	<p>・令和6年度は、市の研究協力校として学園研究を通して児童・生徒の自立した学びについて各校の校内研究を充実させた研究に取り組み、2年間の研究の取組について実践授業を通して研究発表会を開催する。2年間の成果を生かし、令和7年度からのSTEAM教育の視点も考慮した研究科会を設定することで、9年間の体系的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>
と小・中の一貫した教育活動	<p>学園研究会の活性化と交流活動の一層の充実を図り、学園としての一体感を深める。</p>	<p>○市の研究協力校としての研究授業を3校に実施した。自らの授業を生かした教員は、88.1%あり、有意義な研究授業となった。また、授業が分かるという児童・生徒も90%以上あり、児童・生徒の実態に即した授業が展開できた。</p> <p>○交流活動は、コロナ禍前に戻り、多くの交流が行われたことである。対面での熟識等を行うことができた。交流活動が園の一体感を生み出しているという回答した教員は85.9%あり、小・中一貫の重要な要素となっている。</p>	<p>①次年度研究協力校の発表に向けた準備と実践</p> <p>②交流活動の成果検証</p>	<p>①校種を超え、学園教員としての一体感を生徒や教職員に醸成する。</p>	<p>①児童・生徒の自立した学びを目指した授業改善を行う。</p> <p>②学園の交流委員会の主導で、児童と生徒の交流活動を活性化し、学園としての一体感を深める。</p>	<p>①講演を聞き知識を増やしたり、研究授業を行い意見交換、指導を得たりするなかで、授業改善に努める。</p> <p>②学園の交流委員会の主導で、児童会・生徒会交流、小中交流、小中交流、小学生授業体験、合唱リハーサル鑑賞等を実施する。(コロナ後の交流を確立する。)</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>88.1%の教員が「自らの授業を生かした」と回答している。今年度、来年度の2年間は、市の研究協力校の取組として充実したものにしていく。</p> <p>「授業がよく分かる」に対して肯定的な回答をした児童・生徒は、三小92.7%、七小91.0%、四中88.6%だった。</p> <p>8月28、29日部活動体験、9月20日中学校授業体験、小学校運動会ボランティア、中学校の合唱リハーサル鑑賞、小学校授業・展覧会交流、児童生徒代表者会議、学園あそび運動等を実施した。</p> <p>小中が連携して取り組んだ87.4%、小中の一体感を生み出している85.9%であった。今後は、より有意義な交流の仕方を考えていく。</p>	<p>・児童・生徒の自立した学びを目指した授業改善を行う。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>
一人ひとりの学力	<p>相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力を育む。</p>	<p>○「児童・生徒の自立した学びを目指して」という研究主題のもとに、各校、研究授業を実施し、研究に取り組んだ。個々の教員が授業改善に取り組んでいる様子が見られ、授業改善についての意識も高まった。</p> <p>○ICT機器を効果的に活用して授業改善に取り組んでいる教員が増えている。</p> <p>○小学校は、学年・学級閉鎖等の中、2週間に100時間以上の、中学校は図書委員の企画等により過去最高の貸出冊数を記録した。また、各校調べ学習としての利用も多い。</p>	<p>①共通理解を十分図れずに進んでしまった。</p> <p>②更なるICTの効果的な活用</p>	<p>学力論の原理転換を図り、子どもをアクティブ・ラーナーにする学びを確立する。</p>	<p>子どもが自ら問いをもち、知的驚異の場を意図的に設定し、目的をもって思いやり、感謝の気持ち、協力等の豊かな心を涵養する実践に取り組む。</p>	<p>①子どもの文脈で学習を進めることができる全教科・全領域の単元開発を学年協働で取り組む。</p> <p>②各学年でできる限り同じ時間に同じ教科ができる時間割にし、学級の枠を超えて学年の子ども一人の状況を把握したり、情報収集のツールの一つとして学校図書館と連携したりして、個別最適な学習環境をつくる。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>「子どもの文脈で学習できる単元開発」の学年、専科ともに協働して、素晴らしい単元が開発できた。教員の100%が肯定的な回答。そのうち、「よくできた」が50%を超え前回より15%伸びたことに教員の達成度の高さを感ずる。</p> <p>・また、児童も問いをもち、個々の文脈で主体的に学習できたという肯定的な回答が86%を超え、前回より2%伸びた。教員が単元開発に楽しみながら取り組んだことが子どもたちの学び姿として成果が見られた。</p>	<p>・令和6年度は、市の研究協力校として学園研究を通して児童・生徒の自立した学びについて各校の校内研究を充実させた研究に取り組み、2年間の研究の取組について実践授業を通して研究発表会を開催する。2年間の成果を生かし、令和7年度からのSTEAM教育の視点も考慮した研究科会を設定することで、9年間の体系的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>
一人ひとりの個性	<p>伝え合い力を高め、自分も相手も大切にすることを育む。</p>	<p>○学園の挨拶運動が実施でき、各校でも様々な挨拶についての取組も行われ、挨拶についての児童・生徒の意識が高まった。</p> <p>○学期初め、終わりを中心に、児童・生徒への相談体制について、周知できた。日々の生活の中では、スクールカウンセラーを中心に、校内で相談体制を確立している。</p> <p>○「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、未然予防、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。中学校では「いじめゼロサミット」を2回開催できた。</p>	<p>①特別な支援を要する児童・生徒や不登校児童・生徒への対応(増加の傾向と多様な多様な実態)</p>	<p>各教科の学習で身に付けた力を実生活で発揮し、自己のよさを伸ばし、他者のよさを認め、ダイバーシティとインクルージョンの往還を実現する。</p>	<p>多様なコミュニケーションの場や協働の場を意図的に設定し、目的をもって思いやり、感謝の気持ち、協力等の豊かな心を涵養する実践に取り組む。</p>	<p>①学習で身に付けた汎用性のある力を特別活動の場(学校行事、仲良しグループ等)で発揮できるように子どもが目的意識、場意識をもって主体的、協働的に取り組むことで個のよさを受容と共感の心を育む。</p> <p>②地域、保護者の方との意図的な交友の場の設定として、全国交通安全週間「交通安全、あそび週間」に取り組む。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>・教員が子どもたちの受容と共感の心を育む取組については、肯定的な評価が91%で、前回より9%伸びた。これも単元開発による協働的な学びから生まれた心の醸成一つの原因である。</p> <p>・児童では、前回同様、肯定的な評価が90%で、高い評価をキープしている。教員の取組が子どもの実態にも比例している。</p>	<p>・令和6年度は、市の研究協力校として学園研究を通して児童・生徒の自立した学びについて各校の校内研究を充実させた研究に取り組み、2年間の研究の取組について実践授業を通して研究発表会を開催する。2年間の成果を生かし、令和7年度からのSTEAM教育の視点も考慮した研究科会を設定することで、9年間の体系的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>
一人ひとりの健康・体力	<p>すすんで心と体の健康を大切にする態度を育む。</p>	<p>○体育授業の改善、児童・生徒一人ひとりにめあてをもたせた具体的な取組ができた。</p> <p>○令和5年度の食育研究学園(学校)としての取組を継続し、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等について学び、市内産産物を活用した「給食メニュー」の開発に取り組んだ。</p>	<p>①体力、運動能力の向上と食育の推進</p>	<p>体育授業の改善、保護者、地域の方と協働する体力向上を図る。</p>	<p>三小体力向上全体計画のもと、子どもが自分の体力を認知し、生活習慣、運動習慣において主体的なめあてと取組をもって実践することで3年後確実に体力の向上を図る。</p>	<p>①最大延べ人数294名の学習ボランティアを募り、体育開発単元「三小体力向上」を推進し、運動習慣、生活習慣、食育の向上を図る。</p> <p>②体力調査ファイルを活用し、個々の子どもがめあてをもち取組を実践できるように朝の校庭開放の場の設定など、地域保護者と連携して取り組む。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>・教員の取組では、肯定的な評価が88%と前回り、8%伸びた。体力調査ファイルを使った、個々の生活習慣、運動習慣を改善し、体力向上を図る取組が、子どもたちの体力向上につながっていることを感ずる。</p> <p>・しかし、子どもたちの取組度は、肯定的な評価が84%と前回り1%下回った。これは、運動会がインフルエンザの蔓延により、日程変更、中止となったため天然芝の養生期間がずれ、具体的な取組が12月になってからということが要因として考えられる。</p>	<p>・令和6年度は、市の研究協力校として学園研究を通して児童・生徒の自立した学びについて各校の校内研究を充実させた研究に取り組み、2年間の研究の取組について実践授業を通して研究発表会を開催する。2年間の成果を生かし、令和7年度からのSTEAM教育の視点も考慮した研究科会を設定することで、9年間の体系的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>
特色ある教育活動	<p>関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。(学校3部制の第2部の充実を図る。)</p>	<p>○3校のみたく地域未発達の活動、三小、七小の放課後地域子どもクラブの活動、各種検定の実施等、地域人財、関係機関と協働して、児童・生徒の学びの場の提供を行った。</p> <p>○9年間の系統的な防災教育を、地域人財や関係機関と連携して実施することができた。</p>	<p>①三鷹中央学園としての特色ある活動について、共通理解、共通実践を図って進めていくこと。また、地域人財や関係諸機関と連携しながら進めていくこと。</p> <p>○9年間の防災教育への教員の共通理解と共通実践</p> <p>○みたく地域未発達のさらなる充実</p> <p>○三小、七小放課後地域子どもクラブ及び「四中からびー」の充実、発展</p> <p>○各種検定の学園(小学生・中学生・地域)としての実施</p>	<p>本校の強みである地域、保護者の協力と魅力的な校舎施設をフルにいかした「自立した学び各三小スタイル」を築く。</p>	<p>個別最適な学びと協働的な学びを往還させる単元開発と個別最適な学習環境づくりに取り組む。</p>	<p>①マイプラン学習(単元内自由進度学習)、学び合ひ学習(自学自習)、フリータイム総合(サーブタイム)、ハイブリッド型学習等、先行研究校の実践を全授業の2割程度取り入れた探究的な学びの単元開発を行う。</p> <p>②学習ボランティア、地域未発達の、また2部のお三小いわい広場、防災教室、交通安全教室等、保護者、地域の協力のもと個別最適な学習環境、学校生活環境を構築する。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>・保護者、地域との連携で教員の取組度は、肯定的な評価が94%と高く、前回り2%が高まっている。</p> <p>・また、人財活用による学びの充実である、肯定的な評価が82%で、前回り15%伸びた。このことから単元開発の中で、学校行事や校外の学習等において子どもの文脈を作るうえで活用されたことが一番の要因であると考える。</p>	<p>・令和6年度は、市の研究協力校として学園研究を通して児童・生徒の自立した学びについて各校の校内研究を充実させた研究に取り組み、2年間の研究の取組について実践授業を通して研究発表会を開催する。2年間の成果を生かし、令和7年度からのSTEAM教育の視点も考慮した研究科会を設定することで、9年間の体系的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>
学校運営の向上を目指した学校の働き方改革	<p>教職員の実勤務時間の削減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。</p>	<p>○3校ともに、教員の意識改革が進み、超勤時間も削減している。</p>	<p>①学園、学校だけでは解決できないことが多いこと。</p>	<p>改定校務分掌により、時間の有効活用することで、教員一人一人のライフ・ワーク・バランスを確立する。</p>	<p>学校運営の基盤となるマネージメントに特化したインフラと教育目標の実現の実行部隊としての3部会と分掌をシブシブとした、個々の教員の仕事分担の専任制と大幅な会議精選を実現する。</p>	<p>①水曜日を4時間授業とし、午後は全て研究、研修の時間とすることで、組織目標に専念できる時間を確保する。</p> <p>②新しい校務分掌の運用の中で「確実なスクラップ・アンド・ビルド」を行う。</p>	<p>2</p> <p>1</p> <p>3</p> <p>2</p>	<p>・本校の一番の課題であった働き方改革であるが、喜々として単元開発することにより、超勤勤務が減少しないことに対して、業務の効率化において肯定的な評価が66%に達し、前回り16%も向上した。</p> <p>・このことにより、実際の超過勤務時間も昨年より減ったと肯定的に回答した教員は、57%で前回り、23%向上した。</p> <p>数値的には、到達目標値に達していないが、来年度は、更に現上の課題に正対するために探究的な単元開発をする時期と習得的な単元開発する時期と大きな行事に取り組む時期と学期に応じてメリハリのある業務にし、教員も子どもも今何をすればいいのかが明確になった。その中で「自立した学び各三小スタイル」のファースト・モデルであり、その完成を目指す。</p>	<p>・令和6年度は、市の研究協力校として学園研究を通して児童・生徒の自立した学びについて各校の校内研究を充実させた研究に取り組み、2年間の研究の取組について実践授業を通して研究発表会を開催する。2年間の成果を生かし、令和7年度からのSTEAM教育の視点も考慮した研究科会を設定することで、9年間の体系的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・健康部の推進により体力向上全体計画2024の具体的な取組である体力調査、体力向上セミナーの開催等により体力調査ファイルの取組を確実に進める。</p> <p>・「自立した学び」を推進し、効果的な日常の業務を進める。</p>